

第二次スクリーニングの優先度評価結果

地点番号	第一次スクリーニング										第二次スクリーニング計画														追加フロー				優先順位	第二次スクリーニング									
	盛土造成地の位置	盛土造成地の規模			大規模盛土造成地の抽出						優先度評価										その他																		
	所在地	面積 (㎡)	原地盤面の勾配 (度)		高さ (m)	谷埋め型	腹付け型		現地での確認		大規模盛土造成地の種類	①盛土/擁壁の形状・構造					②変状				③地下水	④不安定の土層の有無	⑤造成年代		⑥変動確率		特記事項	優先度			保全対象		既存調査結果 (土質・地下水・N値等)	想定被害形態	変状	常時湧水	地下水水位	盛土が脆弱	
			α	β			面積 3000㎡以上	原地盤面の勾配20度以上、かつ高さ5m以上	必要性	結果		のり面勾配	小段間隔	保のり工面	ひのな傾斜部分	擁壁構造	宅地地盤	擁壁	のり面	周辺施設			方式2による変動確率 (%)	住宅	公共施設等														
田上町0001	田上町 大字湯川	7,132	11.9	—	11.8	○	×	不要	—	谷埋め型	標準	—	標準	標準	—	標準	無	無	無	無	無	有	不明	S61年～S63年	後	2.4	小	のり面勾配標準。宅地等の変状確認されず。	B2	0	1	なし	崩壊	無	無	不明	不明	6	経過観察
田上町0002	田上町 大字田上	30,438	5.6	—	36.9	○	×	不要	—	谷埋め型	急	—	なし	標準	二段	非該当	無	ズレ	無	無	有	有	有	S43年～S48年	前	78.5	大	二段擁壁構造となっている擁壁が存在する。また、一部にズレが生じている擁壁が存在する。のり面が急であり、のり面保護工の痕跡も確認できない。盛土下部には、近接した既存の地質調査により軟弱なシルト層の存在が確認できる。	A1	29	2	あり	崩壊	無	無	低い	有	2	経過観察
田上町0003	田上町 大字田上	16,957	2.9	—	6.1	○	×	不要	—	谷埋め型	—	—	—	標準	二段	非該当	無	無	無	無	無	有	有	M15年～S48年頃	前	47.5	大	末端部の擁壁が二段擁壁構造となっている。盛土下部には、既存の地質調査により軟弱なシルト層・粘土層の存在が確認できる。	A1	14	1	あり	崩壊	無	無	低い	有	3	経過観察
田上町0004	田上町 大字田上	8,255	2.30	—	5.5	○	×	不要	—	谷埋め型	—	—	—	標準	二段	非該当	無	無	無	無	無	有	有	S43年～S48年	前	50.7	大	擁壁が二段擁壁構造となっている。盛土下部には、近接した既存の地質調査により軟弱なシルト層の存在が確認できる。	A1	1	1	あり	崩壊	無	無	低い	有	3	経過観察
田上町0005	田上町 大字田上	10,522	14.60	—	14.6	○	×	不要	—	谷埋め型	急	—	標準	標準	標準	非該当	無	無	無	傾斜	有	有	有	S43年～S48年	前	57.4	大	末端部のり面が急である。のり面保護工の痕跡はある。上部の構造物が傾斜している。盛土下部には、近接した既存の地質調査により軟弱なシルト層の存在が確認できる。	A1	0	1	あり	崩壊	無	無	低い	有	2	経過観察
田上町0006	田上町 大字田上	11,712	5.70	—	15.5	○	×	不要	—	谷埋め型	—	—	—	標準	二段	非該当	無	無	無	無	無	有	有	M15年～S28年頃	前	64.2	大	二段擁壁構造となっている擁壁が存在する。盛土下部には、既存の地質調査により軟弱な粘土層の存在が確認できる。	A4	16	0	あり	崩壊	無	無	低い	有	3	経過観察
田上町0007	田上町 大字田上	22,517	2.50	—	9.5	○	×	不要	—	谷埋め型	—	—	—	急	二段	非該当	無	亀裂	無	無	有	有	不明	S56年～S57年	後	97.3	大	二段擁壁構造となっている擁壁が存在する。また、一部に亀裂が生じている擁壁が存在する。	A1	37	1	なし	崩壊	無	無	不明	不明	2	経過観察
田上町0008	田上町 大字田上	6,541	6.10	—	6.0	○	×	不要	—	谷埋め型	急	—	なし	—	標準	非該当	無	無	無	無	無	有	不明	S51年～S58年	後	44.4	大	末端部のり面が急である。のり面保護工の痕跡は不明。	A2	0	1	なし	崩壊	無	無	不明	不明	3	経過観察
田上町0009	田上町 大字原ヶ崎新田	18,834	3.10	—	6.7	○	×	不要	—	谷埋め型	急	標準	標準	—	標準	非該当	無	無	無	変形	有	有	不明	S37年～S40年	前	44.4	大	末端部のり面が急である。また、末端のり面に設置されたフロン管の変形があり、下部から湧水が確認できる。	A1	0	1	なし	崩壊	有	有	不明	不明	1	実施
田上町0010	田上町 大字田上	4,422	18.60	—	5.0	○	×	不要	—	谷埋め型	急	—	なし	—	標準	非該当	無	無	無	無	無	有	不明	S51年～S58年	後	11.9	小	末端部のり面が急である。のり面保護工の痕跡は不明。	A1	0	1	なし	崩壊	無	無	不明	不明	3	経過観察

田上町0011	田上町 大字川船河	32,113	4.90	—	16.9	○	×	不要	—	谷埋め型	急	—	なし	標準	二段	非該当	無	亀裂	無	無	有	有	有	S52年～S53年	後	32.7	小	末端部のり面が急であり、のり面保護工の痕跡も確認できない。また、末端道路にはクラックや沈下等の現象が現れている。また、二段擁壁構造となっている擁壁が存在する。盛土下部には、既存の地質調査により軟弱な粘土層の存在が確認できる。	A1	56	0	あり	崩壊	有	無	高い	有	1	実施
田上町0012	田上町 大字羽生田	22,714	9.10	—	25.4	○	×	不要	—	谷埋め型	標準	標準	標準	—	標準	標準	無	無	無	無	有	不明	S62年～H2年	後	24.8	小	のり面勾配が適正(30度以下)であり植生が施されている可能性が高い。	A4	0	1	なし	崩壊	無	有	不明	不明	4	経過観察	
田上町0013	田上町 大字船河	25,916	2.80	—	16.2	○	×	不要	—	谷埋め型	—	—	—	標準	二段	非該当	無	ズレ	無	無	有	有	不明	S40年～S42年	前	35.5	小	末端が二段擁壁構造となっている。宅地内にも二段擁壁となっている擁壁が存在し、一部にズレなどの変状が確認される。	A1	48	0	なし	崩壊	無	無	不明	不明	2	経過観察
田上町0014	田上町 大字船河	53,703	1.3	—	11.1	○	×	不要	—	谷埋め型	—	—	—	標準	二段	非該当	無	無	無	無	有	不明	H3年～H5年	後	57.4	大	擁壁が二段擁壁構造となっている。	A1	89	0	なし	崩壊	無	無	不明	不明	3	経過観察	
田上町0015	田上町 大字船河	18,312	3.1	—	4.3	○	×	不要	—	谷埋め型	急	—	なし	—	—	非該当	無	無	無	無	有	不明	S40年～S42年	前	41.3	大	末端部のり面が急である。のり面保護工の痕跡は不明。	A1	0	1	なし	崩壊	無	無	不明	不明	3	経過観察	
田上町0016	田上町 大字船河	7,575	7.1	—	2.9	○	×	不要	—	谷埋め型	標準	—	なし	—	標準	非該当	無	亀裂	無	無	有	有	不明	H7年～H8年	後	101.2	大	のり面保護工の痕跡は不明。擁壁に亀裂が現れている。	A1	11	0	なし	崩壊	無	無	不明	不明	2	経過観察
田上町0017	田上町 大字船河	5,674	0.5	—	7.4	○	×	不要	—	谷埋め型	急	—	なし	—	標準	非該当	無	無	無	無	有	不明	S63年～H5年	後	38.4	小	中間部のり面が急である。のり面保護工の痕跡は不明。	A1	0	1	なし	崩壊	無	無	不明	不明	3	経過観察	
田上町0018	田上町 大字船河	10,981	3.2	—	4.0	○	×	不要	—	谷埋め型	急	—	なし	—	二段	非該当	無	無	無	無	有	不明	S51年～S61年	後	101.2	大	末端が二段擁壁構造となっている。擁壁上部、のり面が急である。のり面保護工の痕跡は不明。	A1	18	1	なし	崩壊	無	無	不明	不明	3	経過観察	
田上町0019	田上町 大字船河	10,779	7.1	—	5.1	○	×	不要	—	谷埋め型	急	—	なし	—	標準	非該当	無	無	段差	無	有	有	不明	H4年～H5年	後	97.3	大	末端部のり面が急であり、のり面保護工の痕跡も確認できない。下部は補強土壁が施工されている上部のり面に、亀裂段差が生じて変状が発生している。	A1	0	1	なし	崩壊	有	無	不明	不明	1	実施

③地下水：現地にて湧水が確認された箇所以外でも、旧沢地形内における盛土造成であるので、集水地形であると判断している。
⑤造成年代：基準年代は「都市計画法施行」昭和44年に設定した。